

日本法科学技術学会誌執筆要領

- 第 1 投稿原稿は、投稿論文テンプレート（別紙 1）に従って作成し、使用する言語は日本語または英語のいずれかとする。日本語は、A4 判用紙に縦長横書きで作成する。英語は、A4 判用紙にダブルスペースで作成する。英語論文は校閲済みであること。
- 第 2 原稿第 1 頁（表紙）の最上欄には、希望審査分野（法生物学、法薬毒物学、法化学、法工学、法文書、法心理学、現場鑑識科学）を明記し、ついで総説、原著、技術報告、速報、ノート、事例報告、資料の別を記載する。表題・著者名・所属機関およびその所在地を和英両文で併記する。論文内容を端的に表現する **Running Head**（日本語の場合は 30 字以内、英語の場合は 60 字以内）を記入する。また、校正刷りの宛先、別刷の部数を朱書する。頁番号は、表紙を含めて 1 頁から始めて、英文抄録、英文抄録の和訳（英語論文においても必要とする）、本文、表、図まで通し番号とする。また、行番号を通し番号で表示する。
- 第 3 次頁に、英文抄録（原著、総説および技術報告 300 語以内、速報、ノート、事例報告および資料 200 語以内）キーワード 5 個以内を **Abstract** と **Key words**：という見出し語を付けて記載する。
- 第 4 本文の中で、章・節の見出しは中揃えとし、小見出しなどは左揃えとする。章・節の見出しの前は 1 行あける。本文は、原則として緒言（**Introduction**）、材料および方法（**Materials and Methods**）、結果（**Results**）、考察（**Discussion**）、謝辞（**Acknowledgment**）、利益相反（**Conflict of interest**）、文献（**References**）の順序とし、その後脚注（**Footnote**）、表（**Tables**）および図（**Figures**）を付ける。ただし、速報、事例報告および資料はこの限りではない。
- 第 5 漢字の使用については、原則的に常用漢字を用いることとする。なお、専門用語に類する

ものについてはその限りではない。ただし、接続語、副詞、助詞には原則として「ひらがな書き」を用いる。

- 第 6 数字は、原則としてアラビア数字とし、単位記号は原則として国際単位系（**SI**）を用いる。それ以外の場合は国際的に慣用されている記号、符号を用いる。単位記号の扱いは別紙 2「単位記号等の扱いについて」に従うものとする。
- 第 7 数式及び演算記号の取り扱い、別紙 2「単位記号等の扱いについて」に従うものとする。
- 第 8 文献引用の様式は別紙 3「文献等の扱いについて」に従うものとする。
- 第 9 本文中の脚注は別紙に記載する。また本文中に脚注参照箇所を明示する（形式は問わないが、文献その他の参照事項と混同しないようにすること）とともに、欄外にも指示する。
- 第 10 表は、1 頁に 1 つとし、和英両論文ともに英文で記載する。表には縦罫線を使用せず、各語句の始めは、原則として大文字とする。脚注を要するときは、表示の語句の右肩に a), b), c) を付記し、表の下欄外にそれぞれの説明を記す。
- 第 11 図（写真を含む）はそのまま製版、印刷ができるものとする。図は、横幅 80 mm 以下、それでは小さすぎる場合は 170 mm 以下とする。図は、1 頁に 1 つとし、図の下部には図の番号、各図の表題および説明を英語で記載する。
- 第 12 表、図の挿入位置は、本文の右欄外に指示し、また、本文中に引用する表、図は **Table 1**, **Fig. 1** などと記載する。
- 第 13 **Supplementary Materials** は、本文中の記述を補足するための説明文、補足資料としての表、図（写真を含む、以下同じ）、音声および動画とし、著者自身が作成したファイルをそのままオンライン掲載するものとする。別紙 4「**Supplementary Materials** の作成について」

て」に従って作成するものとする。

第 14 論文の投稿に際して必要な情報を記載したカバーレター（別紙 5）を添付する。また、著者による論文チェックリスト（様式 1）に基づき、投稿原稿が各項の内容を満たしているかなどのチェックを行い、投稿時に本リストを原稿と共に提出する。投稿規程もしくは執筆要領に沿わない形式で投稿された原稿は再投稿を求める。なお、同リストについては、審査結果を受けて作成した改訂原稿提出時にも添付する。

平成 17 年 2 月 1 日改正（名称変更）

平成 22 年 1 月 31 日改正

平成 23 年 5 月 9 日改正

平成 24 年 7 月 2 日改正

平成 25 年 7 月 1 日改正

令和 元年 9 月 20 日改正

令和 2 年 5 月 27 日改正

令和 3 年 11 月 9 日改正（別紙 3, 4）

令和 5 年 5 月 12 日改正

令和 7 年 5 月 10 日改正（別紙 1, 2）

令和 7 年 11 月 11 日改正（別紙 3, 4）

令和 8 年 5 月 18 日改正（別紙 3）

様式 1

論文チェックリスト

論文タイトル：

著者名：

以下の項目を確認して下さい。

【表紙，英文抄録】

- [] 審査分野，原稿種別が記載されていますか。
- [] 表題，著者名（共著者全員），所属機関および住所を日本語，英語で記載していますか。
- [] 英語著者名は，姓名ともに第一文字だけ大文字としていますか。
- [] 英語名の最後の共著者の前に **and** を記入していますか。
- [] **Running head** を指定文字数内で記載していますか。
- [] 連絡先住所，〒，電話番号，FAX 番号，電子メールアドレス等を朱書きしていますか。
- [] 別刷りの部数を朱書きしていますか。
- [] 頁番号は，表紙を 1 頁とし，英文抄録，英文抄録の和訳，本文，表，図まで通し番号としていますか。
- [] 原稿には各頁の左余白に行番号（通し番号）が付記されていますか。
- [] **Abstract**，*Key words*：の見出し語を付けて記載していますか。
- [] *Key words*：3～5 個。名詞は単数形で記していますか。

【本文】

- [] 句読点：，で記していますか。
- [] 漢字の使用については，執筆要領を遵守していますか（常用漢字とひらがな書き）。
- [] 数字，数式の使用については，執筆要領を遵守していますか（単位記号，書体）。
- [] 本文中の文献引用や文献の参照については，執筆要領を遵守していますか。
- [] 英語論文は，ネイティブチェックがなされていますか。

【参考文献】

- [] 本文中に引用された文献がもれなく網羅されていますか。
- [] 複数の著者による文献は，全員の名前が記されていますか。
- [] 英語名の最後の共著者の前に **and** を記入していますか。
- [] 雑誌名の略記は適切ですか。
- [] 英文雑誌名は斜体，巻数は太字体になっていますか。
- [] 雑誌論文の頁は，000-000，単行本の頁は，pp. 000-000 と記されていますか。
- [] 各文献の年号の後にピリオドが記されていますか。
- [] 特許公報，JIS，Web サイトなどの引用は適切ですか。

【図表】

- [] 図 (Figure)：総数 点 カラー図版掲載希望の場合の図番号： (有料となります)
- [] 表 (Table)：総数 点
- [] 図表はそれぞれ別頁とし，執筆要領を遵守して作成していますか（英語表記，図の大きさ）。
- [] 本文にすべての図表を引用し，その挿入位置を本文右余白に指定していますか。
- [] 図版はすべて鮮明なものですか。
- [] 図版中の文字サイズは適切ですか。
- [] 図表英文タイトル文や脚注文の末尾にピリオドが記されていますか。

●倫理

- [] ヒトゲノム・遺伝子解析研究およびヒトを直接対象とする医学的，生物学的または心理学的研究にあたり，倫理審査委員会で研究を承認されていますか。

●引用許可

- [] 他の文献等から転写した図表は，著作権法に定められた適切な手続きによって引用されていますか。

以上

令和元年 11 月 6 日改定

希望審査分野；法生物学，法薬毒物学，法化学，法工学，法文書，法心理学，現場鑑識科学

(いずれかを記載)

－論文の種類－

(総説，原著，技術報告，速報，ノート，事例報告，資料のいずれかを記載)

(記載例) GC/MSによる生体試料中のフェネチルアミン系およびトリプタミン系乱用薬物の分析

(記載例) 柏 太郎¹，科捜 研¹，法科花子²

(記載例)

¹ ABC研究所 法科学部門 〒000-0000 所在地

² ABC大学 薬学部 分析化学研究室 〒000-0000 所在地

(記載例) Analysis of abused phenethylamine and tryptamine type drugs in biological specimens

(記載例) Taro Kashiwa¹, Ken Kaso and Hanako Houka²

(記載例)

¹ Department of Forensic Sciences, ABC Institute

6-3-1, Kashiwanoha, Kashiwa-shi, Chiba, 277-0882 JAPAN

² Department of Analytical Chemistry, Faculty of Pharmaceutical Sciences, ABC University

2-4-41, Ebara 2-chome, Shinagawa-ku, Tokyo, 142-8501 Japan

Running Head: (論文内容を端的に表現するものとし，和文は30字以内，英文は60字以内)

(記載例) GC/MSによる生体試料中の乱用薬物の分析

校正刷り宛先：(記載例，朱書き)

〒277-0882 千葉県柏市柏の葉6丁目3番地1

ABC 研究所 法科学部 柏 太郎

電話: 00-0000-0000 FAX: 00-0000-0000

E-mail: Kashiwa-taro@abc.com

別刷り部数：25 部 (必要に応じて部数を記載)

著者氏名の書き方は、別紙3の
引用文献の著者氏名の書き方
を参考にして下さい

(ページ番号は、表紙を含めて1頁から始めて、英文抄録、英文抄録の和訳、本文、表、図まで通し番号とする。また、行番号を通し番号で表示する)

Abstract (英文抄録) (改ページして記載)

総説、原著および技術報告は 300 語以内、速報、ノートおよび事例報告は 200 語以内を目安として記載する。本文のフォントは Times New Roman, 12 ポイント, 左揃え, 開始行のみ 4 文字分インデントする。－

(記載例)

We have developed an analytical method for the detection of abused drugs in human serum.

Key words:

3～5words 以内。各キーワードをカンマで区切る。名詞は単数形で記す。先頭単語の頭文字は大文字

(記載例)

GC/MS, Synthetic cannabinoid, Solid-phase dispersive extraction, Human serum

英文抄録の和訳

句読点は、「, (全角カンマ) . (全角ピリオド)」とする。本文も同様とする。和文のフォントは明朝体、英数字は Times New Roman, 12 ポイント, 左揃え, 開始行のみ 1 文字分インデントする。英文校正の際の参考とするため、英文抄録の内容と一致させること。

(記載例)

本研究では、GC/MS 法による血清中の乱用薬物（麻薬、覚せい剤および合成カンナビノイド）の迅速分析法を検討した。

(ページ番号は、表紙を含めて1頁から始めて、英文抄録、英文抄録の和訳、本文、表、図まで
通し番号とする。また、行番号を通し番号で表示する)

(本文) 改ページして記載

本文には、例えば、緒言、実験方法、結果および考察、結言等の大見出しを付けて書
く。以下、必要に応じて中見だし、小見出しを付ける

大見出し

(例：“緒言、材料および方法、結果、考察、結語”など。)

(フォントはゴシック体14ポイント) 大見出しの前は1行空ける。

中見出し (例：“1 試薬、2 試料、3 装置”など)

(フォントはゴシック体12ポイント。中見出しの数字は半角。見出し
数字と見出し文字の間は全角スペース)

小見出し (例：“(1) GC/MS操作条件、(2) 溶出溶媒の検討”など)

(フォントは明朝体12ポイント。小見出しの数字および括弧は半角。
見出し数字と見出し文字の間は全角スペース)

緒言(大見出し、ゴシック体、14ポイント、センタリング、改ページ後の最初
の行から書き出す) (記載例)

緒 言

本文のフォントは、明朝体(英数字はTimes New Roman)、12ポイント、左揃え。

各パラグラフ開始行は1文字分インデントする。

大見出しの後に1行開けずに書き始める。

本文中の括弧は全角括弧とする。

引用文献番号は本文中その項目の右肩に上付きで^{1,2)}、または3件以上の文献を引用する
場合は、³⁻⁵⁾のように通し番号を記す。

(記載例)

大麻の精神作用成分であるテトラヒドロカンナビノールと類似の作用を示す
合成カンナビノイド類は、...Einstein ら¹⁾が報告したように GC/MS 法お
よび LC/MS 法^{2,3)}が報告され、... の方法⁴⁻⁷⁾がある。また、前報^{8-10,12)} ...

材料および方法；(大見出し、ゴシック体、14ポイント、センタリング、大見
出しの前は1行開ける)

(記載例)

(ページ番号は、表紙を含めて1頁から始めて、英文抄録、英文抄録の和訳、本文、表、図まで
通し番号とする。また、行番号を通し番号で表示する)

97

98

材料および方法

99

1 試薬および試料 (ゴシック体, 12 ポイント, 左揃え)

100

凍結ヒト血清は、提出者から適切な同意が得られ、個人情報が確実に連結不
可能で匿名化されている旨の証明が得られたものを〇〇〇から購入した・・・

101

102

(倫理審査委員会等の承認を得ている場合には、その委員会名と承認番号を記
載する)

103

104

(中見出し本文のフォントは、明朝体 (英数字は Times New Roman), 12 ポイン
ト, 左揃え, 各パラグラフ開始行は1文字分インデントする)

105

106

2 器具および装置 (中見出し ゴシック体, 12 ポイント, 左揃え)

107

SPDE で使用する遠心ろ過フィルターは・・・

108

3 試料前処理 (中見出し ゴシック体, 12 ポイント, 左揃え)

109

Oasis® HLB カートリッジから取り出した固相剤 100 mg をマイクロチューブ
に入れ、・・・

110

111

(1) 血清の除タンパク (小見出し フォントは明朝体, 12 ポイント)

112

血清 0.5 mL をマイクロチューブに入れ、アセトニトリル 0.5 mL を加えて攪
拌し、遠心分離した・・・ (小見出し本文のフォントは、明朝体 (英数字は Times
New Roman), 12 ポイント, 左揃え, 各パラグラフ開始行は1文字分インデントす
る)

115

116

117

結 果

118

1 分析法バリデーション (中見出し ゴシック体, 12 ポイント, 左揃え)

119

(1) 検出限界, 定量下限および検量線 (小見出し フォントは明朝体, 12 ポイン ト)

120

121

マトリックスマッチング法⁵⁾により測定を行ったところ、各物質の検出限界 (S/N = 3)
および定量下限値 (S/N > 10) は・・・ (本文のフォントは、明朝体 (英数字は Times
New Roman), 12 ポイント, 左揃え, 各パラグラフ開始行は1文字分インデントする)

123

124

125

(文献引用箇所は、本文中に「」つきの上付き数字で示す。)

126

(表, 図の挿入位置は、本文の右欄外に指示する。)

127

(脚注の参照は本文中に^[脚注 1]のように示す。形式は問わないが文献その他の参照事項と混同しない
ようにすること。挿入位置は、本文の右欄外に指示する。記述内容は別ページに記載する)

128

Fig. 1

脚注 1

(ページ番号は、表紙を含めて1頁から始めて、英文抄録、英文抄録の和訳、本文、表、図まで通し番号とする。また、行番号を通し番号で表示する)

考 察

(本文のフォントは、明朝体(英数字は Times New Roman, 12 ポイント, 左揃え, 各パラグラフ開始行は1文字分インデントする。なお「結果および考察」として、まとめて記載しても良い。)

(考察の後に「結言 (結語, 結論などでもよい)」を必要に応じて加えることができる。本文, 要旨と著しく重複する結言は省略する。また, 「結果」および「考察」において言及していない内容を「結言」に記載することは許されない。)

謝 辞

(必要に応じて記載する。以下, 記載例)

本研究は, ○×研究費補助金(課題番号がある場合には番号を記載する)の助成により行われたもので, 関係各位に深謝する。

利益相反

(本会利益相反マネジメント規程に従い, 必ず申告しなければならない。以下, 記載例)

- ・ 申告すべき利益相反はない。
- ・ 本研究は, 株式会社○○の支援 (研究資金提供, 役務提供, 資機材の供与・貸与等, 具体的な支援内容を記載) により行った。(当該研究と利害関係のある団体からの支援があった場合に記載する。詳細は本会規程を参照のこと。なお公的な研究資金の場合は, 謝辞に記載する)

文 献

・ 本文での引用順に記載する。以下に書式例を示すが, 詳細は執筆要領別紙3「文献等の扱いについて」を参照すること。

様式は次の通り

雑誌を引用する場合

著者名, タイトル. 雑誌名, 巻数, 開始ページ-終了ページ, 発行年.

(記載例)

(ページ番号は、表紙を含めて1頁から始めて、英文抄録、英文抄録の和訳、本文、表、図まで
通し番号とする。また、行番号を通し番号で表示する)

1) Edelman G. J., Gaston E., Van Leeuwen T. G., Cullen P. J. and Aalders M. C. G.,
Hyperspectral imaging for non-contact analysis of forensic traces. *Forensic Sci. Int.*, **223**, 28-
39, 2012.

2) 藤田悟郎, 横田賀英子, 渡邊和美, 鈴木 護, 和智妙子, 大塚祐輔, 倉石宏樹, 実務
のため量的な方法による事件リンク分析. 日本法科学技術学会誌, **16**, 91-104, 2011.

書籍を引用する場合

著者, 章タイトル, 書籍の編者 (必要な場合に記載), 書籍の名称 (英名は斜体). 第○版
(英名は斜体), pp. 開始ページ-終了ページ, 発行者, 発行者の所在都市名, 発行年.
(記載例)

3) Butler J.M., STR Genotyping and Data Interpretation, in: *Fundamentals of Forensic DNA
typing*. pp. 175-204, Academic Press, San Diego, 2010.

4) Morton S. E. and Beal B. L., Alterations in documents, in: Kelly J. S. and Lindblom B. S.
(Eds.) *Scientific Examination of Questioned Documents*. 2nd ed., pp. 319-336, CRC Press
Taylor and Francis Group, Boca Raton, 2006.

5) 金子 毅, 油類, 高取健彦 (編) 捜査のための法科学 第二部 〈法工学・化〉. pp.
439-444, 令文社, 東京, 2005.

その他の資料を引用する場合

「特許公開番号, 発明の名称.」 (記載例) 特開2003-131343, 熱現像感光材料.

「特許番号, 発明の名称.」 (記載例) 特許4021677, 半導体集積回路.

「規格番号, 規格名称, 制定年または改正年.」

(記載例) JIS D 1060, 乗用車の前面・後面の衝突試験方法, 1982.

(記載例) ASTM E2154-01, Standard Practice for Separation and Concentration of Ignitable
Liquid Residues from Fire Debris Samples by Passive Headspace Concentration
with Solid Phase Microextraction (SPME), 2001.

「サイト管理者, ページタイトル, [URL], アクセス年月日.」

(記載例) Federal Bureau of Investigation, Evidence Control, available from
[<http://www.fbi.gov/about-us/lab/ecu>], accessed Nov 15, 2012.

(ページ番号は、表紙を含めて1頁から始めて、英文抄録、英文抄録の和訳、本文、表、図まで
通し番号とする。また、行番号を通し番号で表示する)

脚 注

190

191 脚注 1 : 本研究は である .

192

193 脚注 2 : ただし、今回の

194

195

(ページ番号は、表紙を含めて1頁から始めて、英文抄録、英文抄録の和訳、本文、表、図まで
通し番号とする。また、行番号を通し番号で表示する)

Table の作成例

表は、1 頁に 1 つとし、和英両論文ともに英文で記載する。表には縦罫線を使用せず、各
語句の始めは、原則として大文字とする。脚注を要するときは、表示の語句右肩に a),
b), c) を付記し、表の下欄外にそれぞれの説明を記す。表題は左揃えで作成する。

Table 1 The regression equations and the correlation coefficients obtained using the present method.

Analyte ^{a)}	Sample ^{b)}	Regression equation	Correlation coefficient (<i>r</i>)	Linear range ($\mu\text{g/mL}$)
AAA	Urine	$y = 1.0764x - 0.0191$	0.9992	0.01–2
	Serum	$y = 1.1563x - 0.0024$	0.9998	0.01–2
	Whole blood	$y = 1.0511x - 0.0122$	0.9994	0.01–2
BBB	Urine	$y = 0.9534x + 0.0012$	0.9996	0.01–2
	Serum	$y = 0.8778x + 0.0187$	0.9985	0.01–2
	Whole blood	$y = 0.9200x + 0.0108$	0.9992	0.01–2

a): XXX

b): YYY

(ページ番号は、表紙を含めて1頁から始めて、英文抄録、英文抄録の和訳、本文、表、図まで
通し番号とする。また、行番号を通し番号で表示する)

205 **Figure Captions**

206 (記載例)

207

208 Fig. 1 Chemical structures of AAA, BBB and CCC.

209

210 Fig. 2 SRM chromatograms obtained from the aqueous solution of AAA (10 µg/mL)

(ページ番号は、表紙を含めて1頁から始めて、英文抄録、英文抄録の和訳、本文、表、図まで通し番号とする。また、行番号を通し番号で表示する)

Figure の作成例

図（写真を含む）はそのまま製版、印刷ができるものとする。図の横幅は 80 mm 以下、それでは小さすぎる場合は 170 mm 以下とする。

図は、1 頁に 1 つとし、図の下部は図の番号、各図の表題および説明を英文で記載する。

表および図の挿入位置は本文右欄外に指示する。

(記載例)

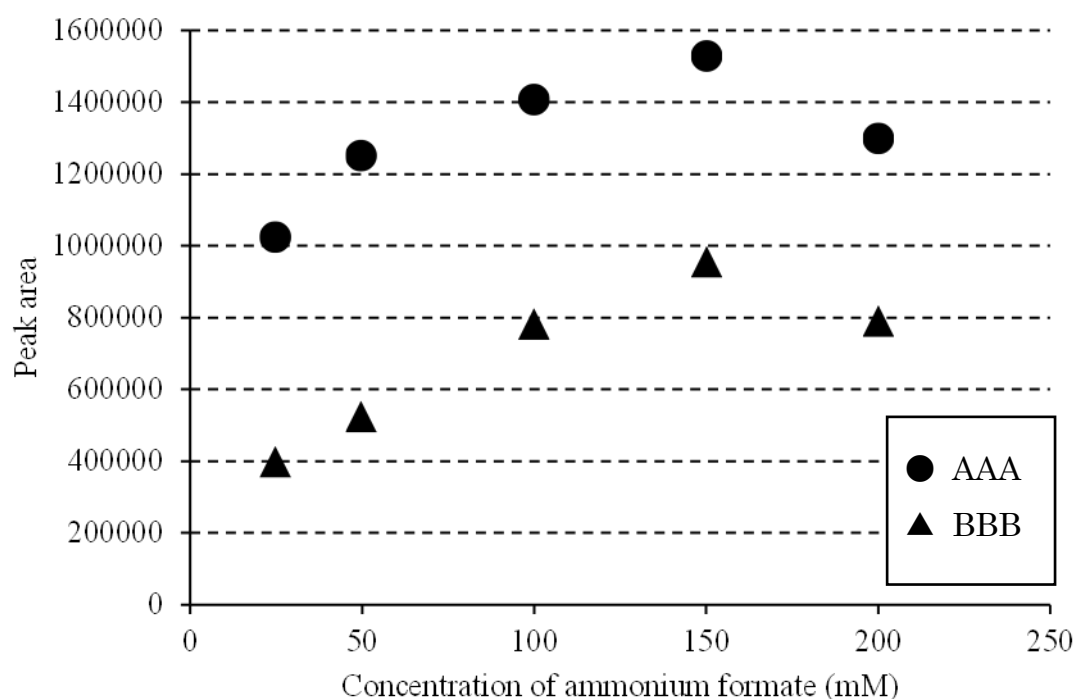


Fig. XX Effect of concentration of ammonium formate in mobile phase on peak area of AAA and BBB from a standard solution of 0.5 $\mu\text{g/mL}$.

別紙2 単位記号等の扱いについて

第1 使用が推奨される単位は以下のものとする

(1) SI 基本単位

基本量	名称	記号
長さ	メートル	m
質量	キログラム	kg
時間	秒	s
電流	アンペア	A
熱力学温度	ケルビン	K
物質量	モル	mol
光度	カンデラ	cd

(2) 固有の名称をもつ SI 組立単位

基本量	名称	記号	SI 基本単位及びSI 組立単位による表し方
平面角	ラジアン	rad	$\text{rad} = \text{m}/\text{m} = 1$
立体角	ステラジアン	sr	$\text{sr} = \text{m}^2/\text{m}^2 = 1$
周波数	ヘルツ	Hz	$\text{Hz} = 1 \text{ s}^{-1}$
力	ニュートン	N	$\text{N} = \text{kg} \cdot \text{m}/\text{s}^2$
圧力，応力	パスカル	Pa	$\text{Pa} = \text{N}/\text{m}^2$
エネルギー，仕事，熱量	ジュール	J	$\text{J} = \text{N} \cdot \text{m}$
パワー，放射束	ワット	W	$\text{W} = \text{J}/\text{s}$
電荷，電気量	クーロン	C	$\text{C} = \text{A} \cdot \text{s}$
電位，電位差，電圧，起電力	ボルト	V	$\text{V} = \text{W}/\text{A}$
静電容量	ファラド	F	$\text{F} = \text{C}/\text{V}$
電気抵抗	オーム	Ω	$\Omega = \text{V}/\text{A}$
コンダクタンス	ジーメンズ	S	$\text{S} = \Omega^{-1}$
磁束	ウェーバ	Wb	$\text{Wb} = \text{V} \cdot \text{s}$
磁束密度	テスラ	T	$\text{T} = \text{Wb}/\text{m}^2$
インダクタンス	ヘンリー	H	$\text{H} = \text{Wb}/\text{A}$
セルシウス温度	セルシウス度	°C	$^{\circ}\text{C} = \text{K}$
光束	ルーメン	lm	$\text{lm} = \text{cd} \cdot \text{sr}$
照度	ルクス	lx	$\text{lx} = \text{lm}/\text{m}^2$

注：セルシウス温度（°C）は一つの記号であるので，°とCの間にスペースを入れてはならない

(3) SI 単位と併記してよい単位

量	名称	記号	定義
時間	分	min	1 min = 60 s
	時	h	1 h = 60 min
	日	d	1 d = 24 h
平面角	度	°	1° = ($\pi/180$) rad
	分	'	1' = (1/60)°
	秒	"	1" = (1/60)'
体積	リットル	l, L	l,(または L) = 1 dm ³
質量	トン	t	t = 1,000 kg

(4) 慣用的に用いられている単位として、本誌においては M (M = mol/L)の使用を認める.

第2 単位の記号は、本文の他の部分で使用されている書体とは関係なく、常に直立体で印刷し、斜体は用いない.

第3 単位記号は原則として小文字で表すが、その名称が人名に由来する場合は記号の最初の一文字は大文字で表す.

例) Pa : パスカル Ω : オーム

第4 リットルの表記については、数字の1 と混同を避けるためL の使用を推奨する

第5 マイクロ (μ) は明朝体で記載すると斜体に見えるため、Times New Roman 体で記載する.

(数値と単位の組み合わせ)

第6 数値と単位の間スペース (通常は半角) を入れる.

例) 345.36 mm, 20.0 °C, 9.32 m/s, 981.7 hPa

第7 パーセント (%), ppm は数字と記号の間に空白を入れない.

第8 平面角の単位 °(度), '(分), "(秒) : 数値と記号を直結する(半角スペースを空けない)

例) 90°, 30', 60"

第9 範囲の表記にあたっては、下限値、上限値ともに単位を付す.

例) 100 °C~200 °C

第10 数（又は量）の前の正符号（+）または負符号（-）数との間にはスペースを入れない．

例) $-7\text{ }^{\circ}\text{C}$, $+5\text{ }^{\circ}\text{C}$

第11 演算等：演算に対しては正又は負の符号の両側にスペースがなければならない．

例) $5 + 2$, $n \pm 1.6$

第12 等号（=），不等号（<，>）の両側にはスペースを設ける．

例) $D < 2\text{ mm}$

第13 分数あるいは除算を含む数式は，原則として $\frac{a}{b}$, $\frac{a+b}{c+d}$ のように記し，本文中に出てくる場合は， a/b , $(a+b)/(c+d)$ のように1行に記載することとする．

第14 大きな桁の又は小さな桁の数値を避けるため，10進の倍量及び分量群を，接頭語とともに構成することができる．接頭語と単位の間にはスペースを入れない．

倍量又は分量	接頭語名称	記号
10^{15}	ペタ	P
10^{12}	テラ	T
10^9	ギガ	G
10^6	メガ	M
10^3	キロ	k
10^2	ヘクト	h
10^1	デカ	da
10^{-1}	デシ	d
10^{-2}	センチ	c
10^{-3}	ミリ	m
10^{-6}	マイクロ	μ
10^{-9}	ナノ	n
10^{-12}	ピコ	p
10^{-15}	フェムト	f
10^{-18}	アト	a

第15 ここに記載の無い単位，数字の扱いについては，JIS Z 8000-1: 2014に従うものとする．

《参考資料》

1. 日本工業規格JIS Z 8000-1: 2014 量及び単位－第一部：一般，2014.
2. JAB NL512：2015，単位や学名等の記載方法について，適合性認定協会 2015.
3. 「物理化学で用いられる量 単位 記号」
[<https://www.nmij.jp/public/report/translation/IUPAC/>], accessed April 22, 2019.

参考資料2に記載されているMicrosoft Word における半角記号の入力例を示す.

	MS 明朝	Times New Roman
	日本語（全角）	英語(半角)
度	°C	°C 記号「度(°)」+C
不等号	≤ ≥	≤≥ 記号
プラスマイナス	±	± 記号
マイクロ	μ	μ 記号

【入力方法】*Microsoft Word におけるごく基本的な入力方法を紹介するもので，PC によつては下記の限りではない．

- 「ど」を変換すると「°」(全角)が選択肢に出てくる．それをTimes new roman などにフォント変換すると「°」(半角)になる．記号挿入でも入力可能．
- 「≤≥」(半角)は記号挿入で入力する．
- 「±」(半角)は「ぷらすまいなす」の変換で現れる「±」(全角)をTimes new roman などにフォントを変更する．または記号挿入でも入力可能．「μ」(半角)も同様．

以上

別紙3 文献等の扱いについて

第1 本文中に文献を引用する際には著者の姓のみとする。英語論文は著者名を英文で表記する。著者が2名のときは、2名の姓を「と」または「and」でつなぎ、3名以上のときは、最初の1人の姓の後ろに「ら」または「et al.」を付ける。文献の参照は番号で示し、上付きの小数字で表し、その最後に小さい「)」を付ける。複数の文献を引用する場合は「,」でつなぐが、文献番号が連続する場合は「-」(en dash)でつなぐ。なおこれらの文字および記号は半角とし、「,」のあと、および数字と「-」の間にスペースは入れない。

例) 3) 3,7) 3-8)

第2 引用した文献は本文の後に「文献 (あるいは References)」として一覧を記載する(以下、本紙においては文献一覧と呼ぶ)。文献一覧への記載順序は本文での引用順とする。ただし本文中において初出で同時に複数の文献を引用する場合は発行年の古い文献から順に引用するものとするが、発行年が同年の文献が複数あった場合の引用順には特に規定は設けない。

第3 雑誌を引用する場合

文献一覧に記載すべき内容は、著者名、タイトル、雑誌名、巻数、開始ページ-終了ページ、発行年とし、様式は以下のとおりとする。

- ・日本語論文は、著者名と著者名の間を全角カンマ (,) でつなぎ、カンマの後にスペースは入れない。
- ・日本語論文の著者名については、1文字の姓の著者および姓名の合計が3文字の著者については、著者の姓と名との間にスペースを設ける。それ以外の著者では姓と名の間にスペースは設けない。
- ・英語論文の著者名は、family name に続いて、first name の頭文字、middle name の頭文字(必要な場合に記載)の順で記載し、頭文字には半角ピリオドを付す。姓と名の間、first name と middle name の間には半角スペースを挿入する。また最終著者の前には and を入れ、and の前にはカンマは付さない。
- ・英語論文の題名は、先頭の文字のみを大文字とする。末尾には半角ピリオドを付す。
- ・英文雑誌名は、国際規格 (ISO 4) およびそれに準拠してISSN国際センターが作成する目録マニュアルと略語表 (List of Title Word Abbreviations) にしたがって略記し、斜体で表記する。略語にはピリオドを付し、末尾には半角カンマを付す。ただし、一語のみで成り立っている誌名の場合は略記しない。

例) "Forensic Sci. Int." "Nature" など。

- ・和文雑誌名は省略しない。例) “日本法科学技術学会誌” など。
- ・巻数，ページ，発行年は半角数字で記載し，巻数のみ太字とする。巻数，ページの後にはそれぞれカンマを付し，さらに半角スペースを挿入する。ページ番号は「-」（en dash）でつなぎ，数字と en dash の間にスペースは入れない。年号の後には半角ピリオドを付す。

以下に記載例を示す。

- 1) Edelman G. J., Gaston E., Van Leeuwen T. G., Cullen P. J. and Aalders M. C. G., Hyperspectral imaging for non-contact analysis of forensic traces. *Forensic Sci. Int.*, **223**, 28–39, 2012.
 - 2) 藤田悟郎，横田賀英子，渡邊和美，鈴木 護，和智妙子，大塚祐輔，倉石宏樹，実務のため量的な方法による事件リンク分析。日本法科学技術学会誌，**16**, 91–104, 2011.
- ・採択済みであるが未発刊の論文を引用する場合は著者名，タイトル，雑誌名に続けて英語論文の場合は (in press)，日本語論文の場合は (印刷中) と記載する。
 - ・採択されていない段階の論文や個人的に入手した情報などは引用することができない。本文中あるいは脚注に「未発表データ」や「私信」として記載する。なおプレプリントサーバーに掲載された採択前の論文原稿を引用する場合は文献一覧には掲載せず，本文中あるいは脚注でプレプリントであることに言及し，プレプリントサーバーの名称と論文 DOI，掲載日を記載する。

第4 書籍を引用する場合

文献一覧に記載すべき内容は，著者，章タイトル，書籍の編者（必要な場合に記載），書籍の名称（英名は斜体）。第○版（英名は斜体），pp. 開始ページ–終了ページ（ページ番号は en dash でつなぎ，数字と en dash の間にスペースは入れない），発行者，発行者の所在都市名（記載ある場合），発行年とする。なお，引用箇所が1 ページの場合は「p. 該当ページ」とする。また，書籍全文を引用する場合は，「総ページ数 pp.」と記載する。

以下に記載例を示す。

- 3) Butler J.M., STR Genotyping and Data Interpretation, in: *Fundamentals of Forensic DNA typing*. pp. 175–204, Academic Press, San Diego, 2010.
- 4) Morton S. E. and Beal B. L., Alterations in documents, in: Kelly J. S. and Lindblom B. S. (Eds.) *Scientific Examination of Questioned Documents*. 2nd ed., pp. 319–336, CRC Press Taylor and Francis Group, Boca Raton, 2006.
- 5) 金子 毅，油類，高取健彦（編），捜査のための法科学 第二部〈法工学・化〉。pp. 439–444，令文社，東京，2005.
- 6) 吉村正一郎，早田道治，山崎 太，森 博美（編），有機りん剤，急性中毒情報ファ

イル. 第3版, p. 37, 広川書店, 東京, 1998.

- 7) 日本薬学会 (編), 薬毒物試験法と注解 2017. 458 pp., 東京化学同人, 東京, 2017.

第5 その他の資料を引用する場合

「特許公開番号, 発明の名称.」

(記載例) 特開2003-131343, 熱現像感光材料.

「特許番号, 発明の名称.」

(記載例) 特許4021677, 半導体集積回路.

「規格番号, 規格名称, 制定年または改正年.」

(記載例) JIS D 1060, 乗用車の前面・後面の衝突試験方法, 1982.

(記載例) ASTM E2154-01, Standard Practice for Separation and Concentration of Ignitable Liquid Residues from Fire Debris Samples by Passive Headspace Concentration with Solid Phase Microextraction (SPME), 2001.

「サイト管理者, ページタイトル, [URL], アクセス年月日.」

(記載例) Federal Bureau of Investigation, Evidence Control, available from [http://www.fbi.gov/about-us/lab/ecu], accessed Nov 15, 2012.

「新聞記事タイトル, 新聞名, 掲載年月日, 朝刊夕刊の別 (版数).」

(記載例) 新東名に自動運転レーン, 日本経済新聞, 2023年3月31日, 朝刊 (12版).

「学会発表要旨、国際学会プロシーディングなど」

(記載例) 北澤和也, 酒の分析. 日本法科学技術学会第28回学術集会講演要旨集, 54, 2022.

(記載例) Kuroiwa Y., Sustained spread of methamphetamine abusers and developments of its analytical methods in Japan. *Proceedings of 14th Meeting of the International Association of Forensic Sciences, Tokyo, 1996, vol. 2, 286-288, 1997.*

別紙4 Supplementary Materials の作成について

日本法科学技術学会誌執筆要領 第12にある Supplementary Materials は以下の要領で作成するものとする。

第1 説明文は、PDF形式(.pdf)で作成する。なおPDFファイルは使用されているフォント全てが埋め込まれているものとする(次項以降のPDFファイルについても同じ)。

第2 表の作成要領は、本文中に掲載する表と同様とする。表番号は本文中の表と区別できるように、Table S1などと記載する。1頁中の掲載数に制限はない。表はPDFファイル(.pdf)とする。

第3 図の作成要領は、本文中に掲載する図と同様とする。ただし図の横幅に制限はない。図の番号は本文中の図と区別できるように、Fig. S1などのように記載する。1頁中の掲載数に制限はない。図はPDF(.pdf)、BMP(.bmp)、GIF(.gif)、JPEG(.jpeg .jpg)あるいはTIFF(.tif .tiff)で作成する。

第4 原則として、説明文、表もしくは図は、これらを含む一つのPDFファイルを作成するものとするが、図については必要に応じて複数のファイルとして作成しても差し支えない。

第5 音声ファイルは、MP3(.mp3)、WAV(.wav)で作成する。

第6 動画ファイルはMOV(.mov)、MP4(.mp4)、MPEG(.mpeg, .mpg)、WMV(.wmv)で作成する。

第7 複数のファイルを作成した場合、もしくは第1から第6に記した種類以外のファイルを提供したい場合には書庫ファイルに納めて掲載することができる。その場合の書庫形式はZIPファイル(.zip)とする。またZIPファイルにパスワードを設定してはならない。

第8 第7の規定にかかわらず、プログラムや.xlsmあるいは.exeなどの実行ファイル類を提供する場合には、原則として読者と著者との直接交渉により提供するものとする。なお、データファイル類のうち拡張子が実行ファイルと同一であるものの掲載にあたっては編集委員会に相談するものとする。

第9 ファイル容量の合計は50 MB未満とする。なお投稿に際しては、編集委員会アドレス(journal@houkagaku.org)あてに一回に送信できる電子ファイル容量の上限が14MBであ

ることに留意すること。

○PDF ファイルにフォントが埋め込まれているか確認する方法

「PDF ファイルを開いて、ファイル→プロパティ→フォント」

全てのフォントが（埋め込み）か（埋め込みサブセット）となっていれば、フォントが埋め込まれています。

埋め込まれていなかった場合、以下の方法を試すか、元ファイルを最終原稿として編集委員会に提出してください。

○フォントを埋め込む方法

1. Adobe acrobat がインストールされている場合に使える方法

プリンターを Adobe PDF として、

プリンターのプロパティ

→Adobe PDF 設定

→PDF 設定を「プレス品質」あるいは「高品質印刷」とする

→「システムのフォントのみ使用し、文書のフォントを使用しない」を解除

2. Word ファイルから変換する場合

Word ファイルを開き、「ファイル」→「オプション」を選択

ポップアップウィンドウが開いたら「保存」を選択

「ファイルにフォントを埋め込む」に☒を入れる

3. Office2010 以降の Word、Excel、PowerPoint から変換する場合

ファイルを開き、「ファイル」→「保存と送信」を選択

「PDF/XPS の作成」を選択

「最適化：○標準（オンライン発行および印刷）」にチェックを入れる

「オプション」を選択

ポップアップウィンドウが開いたら「ISO19005-1 に準拠」に☒を入れる

4. CubePDF を使用して PDF 変換する

プリンターを CubePDF として、

プリンターのプロパティ

→用紙／品質→詳細設定

「TrueType フォント」→「ソフト フォントとしてダウンロード」を選択

「PostScript 出力オプション」→「エラーが軽減するように最適化」を選択

別紙5 カバーレター作成例（※必ずしもこの通りに作成しなければならないものではないが、ここにあげた事項については記載することを求める）

年 月 日

日本法科学技術学会誌 編集委員会御中

日本法科学技術学会誌に論文を投稿いたします。

1. 論文の種類： ※総説・原著・技術報告・速報・ノート・事例報告・資料の別を記載
2. 分野： ※法生物学・法薬毒物学・法化学・法工学・法文書・法心理・現場鑑識の別を記載
3. 表題：
4. 著者：※氏名、所属および会員・非会員の別を全著者について記載

また、以下の項目につき全て確認いたしました

- ・本論文は未発表であり、他の学会誌に投稿・掲載されたものや、査読中のものではないこと
- ・倫理的配慮は十分なされていること

※倫理的配慮が不要な内容の論文は記載しなくても可

※倫理審査委員会承認されている場合は、委員会の名称と承認番号を記載

- ・著者全員が本研究の立案，遂行，解析又は原稿執筆のいずれかに貢献しており、かつこれらの貢献のある人物で本人の同意が得られた人はすべて著者となっていること。
- ・全著者が最終原稿を確認し投稿に同意していること。

その他、連絡事項、特記事項：

- ・以下のような事項があれば記載する。またこの他にも連絡すべき事項があれば記載する。

※ファイルで投稿する場合は、ウイルスチェック済みであることの申告。

※本会学術集会で奨励賞を受賞した内容である場合。

※本会学術集会で発表した内容である場合は、発表年，大会回数，発表時の題名。なお、他学会での発表の場合も、参考情報として記載されたい。

※英語論文の場合、英文校閲を行った業者名あるいはNative Speakerの氏名。

※迅速審査を希望する場合は、理由（学位論文申請のため等）と時間的事情（〇〇年〇月〇日までに採択されている必要がある等）を記載の上、申請することができる。

よろしくお願いいたします。

連絡先著者氏名

連絡先〒、住所、電話、メールアドレス